

# 高精度の検知と充実した運転支援を基本に、 ドライバーの感覚に合った振る舞いを身に付けたHonda SENSING。

## ■交通事故ゼロ社会をめざし進化を加速するHonda SENSING

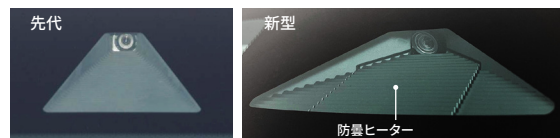
2015年の実用化以来、幅広いモデルへ適用を拡大するとともに、機能・性能を進化させてきたHonda SENSING。2020年3月には、自動運転レベル3の機能を搭載したHonda SENSING Eliteを開発し、交通事故ゼロ社会へ向けた新たな一歩を踏み出しました。新型シビックでは、Honda SENSING Eliteで培った知見と技術を活かし、標識認識機能の地図連携を実現したほか、Honda初となるアダプティブドライビングビームや、シビック初となるトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)を採用。さらに、アクセル、ブレーキ、ステアリングの優れた制御により、ドライバーの感覚に合ったスムーズな運転支援を実現しました。

## ■システム概要

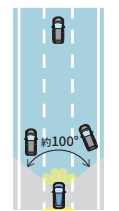
フロントワイドビューカメラと高速画像処理チップにより、従来システム以上の広い範囲と高い精度で対象物を検知します。フロントワイドビューカメラは、従来より大幅に広い約100度の有効水平画角を持ち、一般道で歩行者が横から車道に侵入した場合や、高速道路で他車が自車前方に割り込んだ場合など、いち早く検知。車両前後のソナーセンサーは、誤発進抑制機能や後方誤発進抑制機能などを実現しています。

### フロントワイドビューカメラと高速画像処理チップによる検知

フロントワイドビューカメラが対象物を撮影。画像処理チップが対象物の特徴点を検出し、車両や歩行者などの属性を識別します。同時に対象物の大きさの変化、変化に要した時間、自車の速度などから対象物までの距離を瞬時に測定します。カメラ視野部に曇り防止用のヒーターを備え、ガラスが曇りやすい冬場などでの作動継続性を向上させました。



□検知範囲イメージ図



■ フロントワイドビューカメラによる検知  
■ ソナーセンサーによる検知

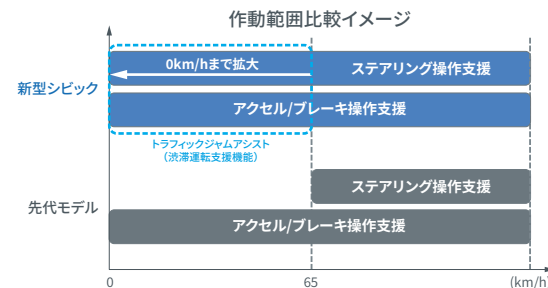
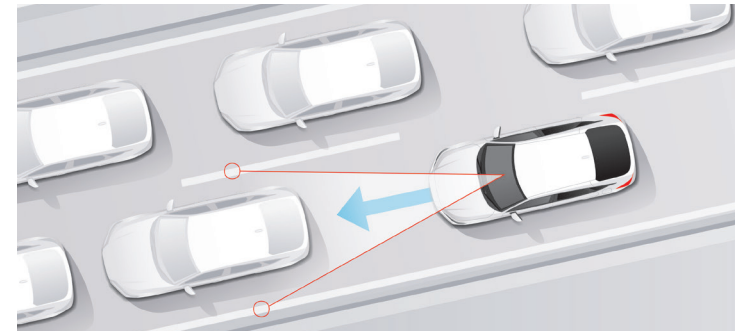
### 前後ソナーセンサー

車両の前方と後方にそれぞれ4つのソナーセンサーを搭載。音波の反射を利用しガラスや外壁など非金属物も高い精度で検知します。



## ■シビック初 トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)(CVT車)

高速道路などでの渋滞時、0km/h～約65km/hの速度域で、先行車との車間を保ちながら自車の走行車線をキープするよう、アクセル、ブレーキ、ステアリングの操作をアシストするトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)を、シビックとして初めてCVT車に採用しました。渋滞解消などで作動上限速度を超えると、従来機能である渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)、および、車線維持支援システム(LKAS)へシームレスに移行します。



渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)と車線維持支援システム(LKAS)が作動しているときに渋滞に遭遇し、一定の条件を満たした場合、トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)が作動。これにより渋滞から高速クルーズまで幅広いシーンで、アクセル、ブレーキ、ステアリングの操作支援を実現します。